

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 (1階)		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&JiyosyoCd=2292100043-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周辺は車の通りが少ない環境で、季節の変化もわかりやすく、安心して散歩や外での
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

着任早々の管理者ですが、佐折という地域にある事業所の特性を心得ています。“畑仕事の苦勞と収穫の喜びを分かち合い、額の汗が食卓の笑顔へと生まれ変わり、家族とともに此処に在ることを感謝しつつ生きる、一富士宮の山間部で暮らしてきた人々の想いを共感し、実践しようとしています。取り組みとして①畑や庭などの環境整備②職場の雰囲気③組織づくり、の3つを挙げ、ユニットリーダーなどとともにチームで推進することを旨としていることから、短時間で解決に向かってのものもでています。5月に予定されている事業所の春まつりは内容が膨らみすぎて、小さくする工夫が必要になったほどで、今後の展開が期待されます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼や全体会議、ユニット会議時に理念を唱和し、理念に基づいた介護を目指しています。またホームの目標を掲げ、笑顔で過ごして頂ける支援を目指しています。クレドも個人で常に携帯しています。	法人理念とともにユニット理念を目に入る場所に掲示しています。管理者交替時にユニットリーダーに伝えた方針は各ユニット内にも浸透していて、5月開催予定の春まつりの内容の豊富さや裏の畑の開墾などに結実しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭やどんど焼きなどの地域の行事に参加させて頂いています。また近所の畑で採れた野菜を頂いたり、地域の方との繋がりを大切にしています。	地域の小学校の入学式にも来賓として招待されており、存在感があることが覗えます。運営推進会議には近所からも1、2名の参加があり、また散歩途中に「これもってきな」と野菜をもらえたりなど、地域に根づいた生活を送っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	単独外出などの予防にも繋がる為、地域の方も含め、全体でホームの方達を暖かく受け入れて頂けるよう理解を得られる場を設けていきたいと思ひます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を参考にし、利用者様への介護サービスの向上を目指しています。細かい意見にもしっかり耳を傾け、目に見える成果を挙げていきたいと思ひます。	管理者は参加者にメンバーシップをもってもらえるような集いにしていきたいと考えていて、隔月開催できています。彼岸花ロードでの散歩コースの提案については、散歩途中にベンチを置くことも検討しています。ほかには認知症が進み、どう接していいかわからないといった家族相談も挙がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や実地指導などで色々なご指導をいただいています。	運営推進会議には、市職員ならびに地域包括支援センター職員の毎回参加が叶っていて、質問や相談に丁寧に対応してもらっています。事業所でもグループホーム部会に積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で研修を行い、身体拘束をしないケアを実践しています。正しい見守りの位置、言葉の遣い方などを、今後も勉強していきたいと思ひます。	ケア日報に「本日のヒヤリハット」を記録していて、月単位でユニットリーダーがまとめ、共有するようになってから事故が減りました。また、入職時のオリエンテーションにも大切な項目として加えられています。各階の利用者が1ヶ所に集まり、ぼたもちをつくるなどして、ユニット間の行き来もあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で学ぶ機会を作っています。スタッフと情報を共有し、虐待防止の徹底に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解できていないのが現状なので、学ぶ機会を持ち、支援できるようにしていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長とケアマネが十分な説明を行い、疑問が残らないようにしています。入居後もコミュニケーションがとれる場を設け、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを参考に、知りたい情報を手紙や面会時にお伝えしています。意見や要望にも応えられるよう、スタッフ間で情報を共有しています。	法人で毎年取り組む家族アンケートにあった「メニューを知りたい」との要望は、玄関に貼りだすことで速やかに改善しています。管理者は着任直後から、事業所たよりやホームページを通じて挨拶につとめていて、5月の春まつりで家族一同と会することを心待ちにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議で話し合いを設け、意見を言う場を作っています。職員の意見をしっかりと聞き、良いサービスができるよう努めています。	新任管理者は着任から現在に至るまで、隙間の時間を利用して職員と会話をもつよう努めています。また、職員にも「否定的な言葉で返すのはやめよう」「提案で返そう」と指導しており、オープンで快活な雰囲気が醸成されつつあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの表情や様子もしっかり把握し、すぐに話をできる場を作り、個々に働きやすいと思える環境作りを目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修をする場を設けています。それぞれフロア、季節に合った課題の研修を行い、実践に向けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームと協力し、研修などを通していろいろな知識や方法を得たり、不安や成功を共感していきたいです。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活において、会話やコミュニケーションを図り信用を築き、本人の不安や要望など、本人から自然な流れで話をしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本はホーム長やケアマネがご家族との話し合いを充分に行い、ご家族の理解を得よう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を取り入れつつ、会議などで話し合い、他のサービスも含めた介護計画に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、できそうな事、やりたい事を把握し、食事の準備や片付け、掃除やレク等を共にし、信頼関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子を手紙でお知らせしたり、ご家族にイベント行事に参加して頂いたりして関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方の面会や、外泊時に近所の友人宅へ遊びに行くなど、本人の周りの関係維持に努めています。	お茶の師範だった利用者が、定期的に皆にお茶を点ててくれます。外泊時になじみの理美容で整髪して来たり、喫煙や好みの新聞購読を続けている人もいます。農作業がなじみの人が多く、裏の畑の整備により収穫物が増えたことは喜びとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士で入浴や散歩をしたり、利用者様全員で楽しくレクリエーションを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム長やケアマネが中心となり、退去後も必要に応じた相談・支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や要望をなるべく実現できるように尊重し、会議や職員間の情報共有にて検討しています。	担当職員が、本人の体調、発語、変化などについて“気づきシート”を作成しています。アセスメントにセンター方式の一部を導入していて、“見つめる”、“寄り添う”ことを大切にしたい取り組みが視えます。例えば、服や靴をお揃いにした仲良しの利用者の買い物支援もおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報や、直接ご家族に話を聞いたりしながら参考にして、その方に合ったサービスを提供しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとの日常生活の様子、心身状態や能力など、常に把握しながら、お手伝いや趣味などの時間を楽しく過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合いを行い、ご本人の現状を把握しながら、充実した毎日が送れるよう計画・実践しています。	担当職員が“気づきシート”を作成したうえ、職員間でカンファレンスをおこない、収束した意見を各階の計画作成担当者がプランのベースを作成しています。利用者、家族の意向も含め、ケアマネージャーがプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、様子の気付きや変化があった時には情報を共有し、必要に応じて介護計画の修正を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に沿った趣味の道具や生活用品の買い物や、外食で何を食べたいか、どこへ行きたいのか等、ニーズに応えられるよう取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩ができる環境があり、お一人で散歩をされることもあります。時間を把握して所在確認をし、散歩ができるよう支援しています。また庭では野菜を作り、水やりや収穫を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診があります。医師やご家族様とも連携し、一人ひとりに合った適切な医療を受けられるように支援しています。	協力医は月1回の往診があり、受診が必要な場合は職員がおこなうため、協力医に9割以上が変更しています。月～金は看護師が常駐していますが、声をかければ跳んでくれる場所に自宅があるため、オンコール24時間、365日対応の心強い状況にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックし、様子の変化があればすぐに看護師に報告し、指示を仰いでいます。必要時は看護師から医師、ご家族への報告も徹底しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長、ケアマネが情報を聞き、各フロアスタッフへ伝えていきます。退院後も環境を整え、不安にならないようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は重度の方がいませんが、今後の対応方法をご本人様、ご家族様とも相談し、スタッフも情報を共有して対応できるようにしていきたい。	契約時に家族には説明し、事業所の方針を理解してもらっています。家族と医療の協力が得られ、職員体制が整っているといった諸条件が揃った場合には、家族の要望を受け入れたいと考えています。ただし、現状、職員への確認や事業所の書面づくりを整えていくことは課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等で対応方法、連絡方法などを把握して備えています。毎日ヒヤリハットを書き出し、事故が起こらないよう防止策を考えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていますが、全スタッフがしっかり対応できるように体制を作っていく必要があると思います。	消防署に計画書を提出して年2回の訓練に取り組んでいます。本年は「全員が外へでる方法、」についてあらためて見直しています。備蓄は外の倉庫に3日分の備えがあります。今後は、連絡網についての見直しを予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとり一人の性格や行動を把握し、その方に合った適切な声掛けや対応をするよう、心掛けています。	申し送りは1階において各階合同でおこなっています。2階の職員だから1階のことは知らなくていいということではなく、連携と協力をもって取り組むことが良いサービスに繋がるとして、利用者への見守りと気づきも増えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人のやりたい事や希望を聞きながら、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの時間はある程度の制限がありますが、それ以外はその方個人の希望、ペースに合わせた支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容にてカットやカラー、パーマをかけたリ、またネイルアートなどをして、その方の希望に合うよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器拭きなど役割分担したり、おやつや食事作りもコミュニケーションをとりながら楽しんで行っていたできるようにしています。	利用者の作った「青菜の胡麻和え、など、長年の腕の高さを味わうこともでき、また郷土料理の「富士宮やきそば、も美味しく、おかわりする人を視認しました。どんど焼きでは繭玉づくりからお団子、節分の恵方巻きなど、季節行事に合わせたメニューも楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎日記録し、また刻み食やお粥など、その方に合わせた食事形態で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法(歯ブラシの大きさやハミングッドなど)で口腔ケアを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様ごとの排泄パターンや回数を把握しながら、トイレ誘導や声掛けの介助を行い、極力トイレでの排泄の自立支援を行っています。	1日単位の排泄チェックの記録から、個人毎の一覧表に転記しています。この作業により、排泄のタイミングを図るためだけでなく、尿路感染などの未病につながっています。これまでもヨーグルトを便秘対策としていましたが、職員提案できない粉も併用しており、改善意識の高さが覗えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞りがちな利用者様に対しては、ラキソベロンや下剤などを使用し、コントロールしています。また毎朝牛乳を飲んでいただき、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴好きな方はほぼ毎日入浴していただき、拒否のある方にも、機嫌の良い時などタイミングを図り、楽しく入浴できるよう支援しています。	毎日湯をはって、休浴日は元旦ぐらいです。1日3~4人の入浴としていて、2日から3日に1度の入浴が叶っています。入浴剤の色や香り、職員との会話を楽しんでいます。浴槽が広いこともあり、仲良く2人で入る利用者もします。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個人または利用者様同士で、こたつやベッドで休んでいただき、夜間寝付けない方は就寝前の会話などで対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとの薬の内容や服薬時間を確認し、医師の往診などで変更、追加になった時は随時スタッフ間で情報共有、経過観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者様ごとに合った趣味、役割などでは、散歩や歌、DVD、刺し子や掃除、食事準備などを提供し、また月ごとのイベントや外食にて気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と買物や外食に出掛けたり、様々なイベントやご家族様との外出など、協力して本人の希望をなるべく尊重しながら支援しています。	「たまには映画を見たい」との会話から、小グループででかけ「東京物語」を視聴したこともあります。天候と体調がよければ散歩に出掛けることが習慣になっていて、散歩途中に山菜や花を摘んだり、馴染みの家々に立ち寄りしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の金庫で管理をしていますが、玄関前の自動販売機や買物などで、必要に応じてお小遣いが使用できています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば、手紙や電話をする事は可能になっています。ご家族様からの理解も得ています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、共有の場は衛生的にも特に注意をしています。季節に合った利用者様の写真を貼る事で、生活感を出しています。	利用者のアクティビティの作品が壁にちりはめられていて、家族も面会の折に、立ち止まって見てゆくとのことです。「まぶしい」との利用者の要望にカーテンをしめて対応し、またその人が居室に入るとほかの利用者のためにカーテンを引いている職員を視認しました。窓枠を額とし、雄々しい富士の絵画もインテリアのひとつとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは仲の良い利用者様同士の席の配置をしていますが、気の合わない方との口論にならないよう、居室にコタツを置くなど安心して過ごせる居場所や雰囲気作りを大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との写真を飾ったり、自宅で使用していたタンスなどを持ってきていただき使用しています。	広い空間にエアコン、ベッド、カーテン、クローゼット、チェスト、洗面台などが備え付けられていますが、テレビやテーブル、ソファなど馴染みの家具を持ち込んでいます。鉢植えの植物もよく育っていて、採光のよさも覗えます。アートセラピーの作品が表札代わりとして華やいだ雰囲気を醸し出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時にすぐつかまれるようテーブルの配置に気を付けたり、安全に生活していただけるよう注意をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100043		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮 (2階)		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&JigyosyoCd=2292100043-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの立地条件を活かした取り組みに力を入れています。また利用者様ひとり一人に合わせた関わりや過ごし方に工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

着任早々の管理者ですが、佐折という地域にある事業所の特性を心得ています。“畑仕事の苦労と収穫の喜びを分かち合い、額の汗が食卓の笑顔へと生まれ変わり、家族とともに此処に在ることを感謝しつつ生きる、一富士宮の山間部で暮らしてきた人々の想いを共感し、実践しようとしています。取り組みとして①畑や庭などの環境整備②職場の雰囲気③組織づくり、の3つを挙げ、ユニットリーダーなどとともにチームで推進することを旨としていることから、短時間で解決に向かっていくものもできています。5月に予定されている事業所の春まつりは内容が膨らみすぎて、小さくする工夫が必要になったほどで、今後の展開が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼や各会議で理念の唱和を行い、意識して取り組むよう共有しています。	法人理念とともにユニット理念を目に入る場所に掲示しています。管理者交替時にユニットリーダーに伝えた方針は各ユニット内にも浸透していて、5月開催予定の春まつりの内容の豊富さや裏の畑の開墾などに結実しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に馴染んだ存在となるよう、日常的な散歩などの活動において交流しています。	地域の小学校の入学式にも来賓として招待されており、存在感があることが覗えます。運営推進会議には近所からも1、2名の参加があり、また散歩途中に「これもってきな」と野菜をもらえたりなど、地域に根づいた生活を送っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域の方へ認知症の理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でいただいたご意見や要望については、情報を共有して、サービスの質の向上に繋げています。	管理者は参加者にメンバーシップをもってもらえるような集いにしていきたいと考えていて、隔月開催できています。彼岸花ロードでの散歩コースの提案については、散歩途中にベンチを置くことも検討しています。ほかには認知症が進み、どう接していいかわからないといった家族相談も挙がっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、取り組みやホームの状況を相談しています。	運営推進会議には、市職員ならびに地域包括支援センター職員の毎回参加が叶っていて、質問や相談に丁寧に対応してもらっています。事業所でもグループホーム部会に積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の研修や、ユニット会議において身体拘束しないケアの意識を持つ事、理解を深めるようにしています。	ケア日報に「本日のヒヤリハット」を記録していて、月単位でユニットリーダーがまとめ、共有するようになってから事故が減りました。また、入職時のオリエンテーションにも大切な項目として加えられています。各階の利用者が1ヶ所に集まり、ぼたもちをつくるなどして、ユニット間の行き来もあります	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解は充分とは言えないので、今後の研修の課題にして取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はホーム長が行っていますが、疑問や質問があった時には、引き継いでご理解を得られるよう説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを行い、その結果に対しての取り組みを実践しています。	法人で毎年取り組む家族アンケートにあった「メニューを知りたい」との要望は、玄関に貼りだすことで速やかに改善しています。管理者は着任直後から、事業所たよりやホームページを通じて挨拶につとめていて、5月の春まつりで家族一同と会することを心待ちにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフも毎年アンケートを実施し、意見や要望を伝えています。また日常的にも相談ができる体制ができています。	新任管理者は着任から現在に至るまで、隙間の時間を利用して職員と会話をもつよう努めています。また、職員にも「否定的な言葉で返すのはやめよう」「提案で返そう」と指導しており、オープンで快活な雰囲気が醸成されつつあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の条件なども情報共有した上で、やりがいのある環境づくりを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体的な研修や、個別の指導により、スキルアップできる取り組みを意識しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会の研修などを通じて、交流する機会を持って、質の向上に繋がっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼を持てるよう、色々な情報を早めに把握する事、その人らしさを引き出せるように努め、「この人となら」と感じていただけるように考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランなどで、本人が現在行っている事や、また些細な事でも家族の方が安心できるようにお伝えして関係作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は、特に面会時等に様子を細かくお伝えして対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとり、本人の話をよく聴くことで、共に生活する関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはご本人様の様子を伝えると共に、関わりを多く持っていただけるよう関係作りを意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の話や昔からの馴染みの話など、思い出を大切にできるよう意識している。	お茶の師範だった利用者が、定期的に皆にお茶を点ててくれます。外泊時になじみの理美容で整髪して来たり、喫煙や好みの新聞購読を続けている人もいます。農作業がなじみの人が多く、裏の畑の整備により収穫物が増えたことは喜びとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人をよく理解し、それぞれの個性を活かして関わられるよう意識しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他へ移られた方が困らないよう、これまでの状況を詳しく伝えるなど、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のケアを実現できるよう、可能な限り希望を把握している。	担当職員が、本人の体調、発言、変化などについて“気づきシート”を作成しています。アセスメントにセンター方式の一部を導入していて、“見つめる”、“寄り添う”ことを大切にしたい取り組みが視えます。例えば、服や靴をお揃いにしてほしい仲良しの利用者の買い物支援もおこなっています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの生活が維持できるよう、家族やこれまでの関わりから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、それぞれのペースや状態の変化を観察し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や本人の思いを確認した上で、ケアプランに反映するように努めている。	担当職員が“気づきシート”を作成したうえ、職員間でカンファレンスをおこない、収束した意見を各階の計画作成担当者がプランのベースを作成しています。利用者、家族の意向も含め、ケアマネージャーがプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきを共有し、スタッフ個々のアイデアも会議で集約して見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた柔軟な対応が出来るよう、意識して取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にも運営推進会議等に出席いただき、利用者の理解をしていただけるよう努めている。また地域の行事へも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と連携し、変化があった場合には早めに相談をする体制が整っています。	協力医は月1回の往診があり、受診が必要な場合は職員がおこなうため、協力医に9割以上が変更しています。月～金は看護師が常駐していますが、声をかければ跳んでくれる場所に自宅があるため、オンコール24時間、365日対応の心強い状況にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に変化に気付いた際には、すぐに看護師へ相談する体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は可能な限り面会に伺い、様子の把握を行うと共に病院側との相談や情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期のあり方についてご家族のおおよその意見を伺い、迎える段階で主治医や家族の意見を考慮して方針決定する。	契約時に家族には説明し、事業所の方針を理解してもらっています。家族と医療の協力が得られ、職員体制が整っているといった諸条件が揃った場合には、家族の要望を受け入れたいと考えています。ただし、現状、職員への確認や事業所の書面づくりを整えていくことは課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないものの、必要に応じて急変時、事故発生時の対応の訓練をしている。AED操作、誤嚥の対応など。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震発生時の定期的な避難訓練を実施している。	消防署に計画書を提出して年2回の訓練に取り組んでいます。本年は「全員が外へでる方法」についてあらためて見直しています。備蓄は外の倉庫に3日分の備えがあります。今後は、連絡網についての見直しを予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライド、プライバシーを考慮し、声掛けや対応をしている。	申し送りは1階において各階合同でおこなっています。2階の職員だから1階のことは知らなくていいということはなく、連携と協力をもって取り組むことが良いサービスに繋がるとして、利用者への見守りと気づきも増えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアに重点を置き、その人ひとり一人の思いや希望に添い、自己決定にて生活できる支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った個別の過ごし方ができるよう、希望を把握するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を買いに出掛ける支援や、化粧品の購入などを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の能力や希望に合わせて準備や片付けをスタッフと共に実施している。一緒に食事を摂り、話題作りなども意識している。	利用者の作った「青菜の胡麻和え、など、長年の腕の高さを味わうこともでき、また郷土料理の「富士宮やきそば、も美味しく、おかわりする人を視認しました。どんど焼きでは繭玉づくりからお団子、節分の恵方巻きなど、季節行事に合わせたメニューも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事内容や摂取量を把握している。水分は1日1000cc以上摂れるよう意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じた介助、促し、見守りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にパターンの把握をし、トイレへの誘導を行うようにしている。	1日単位の排泄チェックの記録から、個人毎の一覧表に転記しています。この作業により、排泄のタイミングを図るためだけでなく、尿路感染などの未病につながっています。これまでもヨーグルトを便秘対策としていましたが、職員提案できない粉も併用しており、改善意識の高さが覗えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食前に牛乳、ヨーグルトを提供し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間設定はあるものの、出来る限り希望に沿ったタイミングで入浴できるようにしている。	毎日湯をはっていて、休浴日は元旦ぐらいです。1日3~4人の入浴としていて、2日から3日に1度の入浴が叶っています。入浴剤の色や香り、職員との会話を楽しんでいます。浴槽が広いこともあり、仲良く2人で入る利用者もします。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に合わせて休憩時間をとっていただいている。安眠できるよう、個別の対応を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は把握しており、症状の変化には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみ、気分転換ができるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出が難しい身体状態になっている方が多い為、個別対応となっている。	「たまには映画を見たい」との会話から、小グループででかけ「東京物語」を視聴したこともあります。天候と体調がよければ散歩に出掛けることが習慣になっていて、散策途中に山菜や花を摘んだり、馴染みの家々に立ち寄りたりしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣いは事務所管理だが、外出時には必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はないので、希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感があり、居心地良くなるように配慮している。季節感をもっと大事に行きたい。	利用者のアクティビティの作品が壁にちりほめられていて、家族も面会の折に、立ち止まって見てゆくとのことです。「まぶしい」との利用者の要望にカーテンをしめて対応し、またその人が居室に入るとほかの利用者のためにカーテンを引いている職員を視認しました。窓枠を額とし、雄々しい富士の絵画もインテリアのひとつとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ自由に過ごせる居場所が確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ち込んで使用していただいている。	広い空間にエアコン、ベッド、カーテン、クローゼット、チェスト、洗面台などが備え付けられていますが、テレビやテーブル、ソファなど馴染みの家具を持ち込んでいます。鉢植えの植物もよく育っていて、採光のよさも覗えます。アートセラピーの作品が表札代わりとして華やいだ雰囲気を出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を避けて安全に生活できるよう工夫している。		